

叔父は1枚の紙になつて帰つてきた

営業写真家として知られた父の「竹田写真館」を平成22（2010）年まで引き継ぎ、千代田区議会議員としても活躍してきた竹田靖子さん（79歳）。九段に生まれ、2度の疎開生活を過ごした戦争時代は、その生き方の根幹を作っていたとも言えます。

最後の写真を撮りに来た出征兵士たち

まず、お生まれになった年と場所、ご家族を教えてください。

昭和11（1936）年生まれの79歳です。ここ九段の生まれです。私の両親は亡くなっていますが、父と母、4歳下の弟がいました。

— お父様は靖国神社の近くで写真館を営んでいたそうですが。

父は樺太の出身でした。北海道で写真の修業をしてから赤坂の写真館に入りました。腕がいいと言われていたそうで、絵描きだった母方の祖父や祖母も呼んで、昭和10（1935）年に九段の表通りで独立開業したんです。今、トヨタビルがある一角がスタジオ兼住居。私はその翌年に生まれました。

— 靖国神社にお参りした兵隊さんの写真を

撮っていたと聞きますが、記念写真ですか。

出征前に、タスキをかけて本殿に参拝し、帰りに家族写真を撮るんです。兵隊さんを真ん中に家族で囲んで。もう帰って来られないかもしれないから、最後の写真ですね。靖国は特殊な神社なので、皆、写真を撮っていました。だから神社のそばには何軒も写真館があって、それなりに繁盛していました。ところが戦争が始まってしばらくたつと、兵隊さんの顔がどんどん若くなっていくんです。職業軍人ではなく、赤紙で召集される人たちです。親もそう話していたし、私自身も覚えています。幼稚園から小学3年までの間、ずっとそれを見ていたんです。もちろん写真館ではふだんは普通の写真も撮りますよ。でも戦争が進んでいくと、写真を撮ろうなんていう気持ちもなくなっていくますよね。



たけだ やすこ
竹田 靖子
九段南

インタビューー

西山侑里（高校2年生）
谷垣柚乃（高校2年生）
大須賀 龍（高校1年生）



——兵隊さんが年々若くなるというのは。

年々といっても短期間です。4年間のアジア太平洋戦争の後半、どんどん戦局が悪化していつて。幼稚園児での記憶ですから定かではありませんが、最後の1年から2年の間でしょうか。最後は中学生も動員されたくらいですから、おじさんからお兄さんになっていくという印象でした。

——靖国神社は子供にとっても特別な神社でしたか。

そうですね。まず戦争の最初の頃、天皇がお参りに来られました。でも姿を見てはいけません。神社の石垣沿いには商店に向かって憲兵がずらっと立っているの。のぞき見る者がいないようにするためです。写真館の2階も全部カーテンを閉めさせられました。でも私、幼稚園児だから、パーツと家から飛び出したんです。そしたら憲兵が飛んで来て「何やっとするんだ」と怒られました。父がすごく謝ったんですが怒鳴り散らされ、近くをよく知っているお巡りさんがすっ飛んで来て謝ってくれ、やっと収まりました。

叔父は場所も知れない地で戦死

——身近な方も戦争に行かれましたか。

叔父です。母には2人の弟がいて、1人は体が弱くて家にいましたが、もう1人は体格も良く、中卒で築地の魚河岸に入って、マグロの卸

問屋に勤めていました。本当に元気な人で、私もかわいがってもらっていました。召集されたのは戦争の終わりの頃、叔父は20代前半、私は小学1年になっていたと思います。出征する人は赤羽駐屯地に全員集められていたのですが、そこを家族皆で訪ね、最後の旅だと伊香保温泉に1泊旅行に行きました。お風呂に入り、その叔父が、温泉街の露店で買ってきてくれたトマトにお砂糖をかけて食べました。何も無い時代に食べた、その味は今も忘れられません。

叔父が亡くなったのは南方というだけで、どこなのかは分かりません。正義感のある人だったから、仲間が殴られるのを見ると、上官にも臆せず抗議したり、仲間を助けたりしていたと聞いています。だから前線に送られたのだそうです。

——戦死が分かったのは知らせがあつたのですか。

白木の箱が返されました。お骨もない。髪の毛すらない。「中村金次郎霊」という紙きれ1枚が入っているだけです。母はわーっと泣いて。私は子供でしたが、祖母が縁側に行つてその箱を抱き、叔父の名を呼びながらずっと泣き続けている姿を見ていました。紙の他は何も入っていない箱を抱いてです。

私は靖国神社に叔父が英霊として祀られているとは思えないんです。幼稚園からカトリック系の白百合学園でしたが、校長は靖国の前を通るたびにお辞儀をするようにと指導していま



憲兵

旧陸軍兵科の1つ。陸軍大臣の管轄下にあつたが、アメリカのMP（陸軍）より権限の範囲は広く、陸海両軍内の警察業務を担当したほか、内務、司法省にも所属した。軍機保護、徴兵・召集などの法令施行、軍紀・風紀の監視、軍人軍属関係の犯罪捜査などにあたり、軍備拡張に伴い強化された。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑

昭和34年に国によって建設され、戦没者の遺骨が埋葬されている墓苑。第二次世界大戦において広範な地域で戦闘が展開されるなかで、海外の戦場で多くの人が戦死された。戦後、持ち帰られた遺骨のうち、名前の分からない戦没者の遺骨が納められた「無名戦士の墓」であるとともに、慰霊追悼のための聖苑でもある。

た。でも私はできなかった。今もそうです。無名戦士の墓である千鳥ヶ淵戦没者墓苑には、拾ってきた兵士たちのお骨が祀られているので、もしかしたらそこに叔父もいるのではとも思います。また最近、「中村」と書かれた飯盒を南方現地の人が使っているという新聞記事を読み、叔父のものではないかと思ったりもします。もちろん200万人も亡くなった中に、「中村」なんていっぱいいるでしょう。まだ収集しきれしていない遺骨もどれほどあるか。それを考えると、まだ償われていない戦争の責任って誰にあるのだろうかと思えますね。

辛い日々を送った疎開先

—学校では疎開はされたのですか。

学童疎開はありました。昭和19(1944)年、小学2年生のときです。学校が強羅に設けた分教室に行きました。人数は少なかったですよ。家族で先に疎開している人も多かったですから。ここでは辛かったですね。上級生が先生と一緒にやっていろいろ注意してくれるのが低学年には辛かったです。毎日毎日、アレしちやいけない、コレしちやいけないと。早くお母さんのところに戻りたいと思うばかりでした。

—食事はどうでしたか。

修道院の一角だったでしょうが、テーブルもないので長い板を机にして、向かい合わせで食べていました。食料は乏しく、出てくるものは

ご飯と味噌汁とらっきょう、アミの佃煮くらい。らっきょうが苦手な子もいて、私はらっきょう好きだったので机の下から回ってくるの。先生の目を盗んで食べ、器だけ返すんです。ご飯も白米ではないですよ。芋が入っていたり麦が入っていたり。小さなどんぶりに入っていて、おかわりはできませんでした。山では薪を拾って、それでご飯を炊いたりお風呂を沸かしたりしていました。

月に1回くらいは親が面会にきました。おやつの差し入れは禁止でした。持って来てもらえない子もいるから。でもやはり親心で隠して持って来るんです。おやつと言ってもお芋ですよ。そして皆、それを脱衣所でこそそと食べる。たぶん先生も分かっている目をつぶっていたんでしょう。

—終戦までそこに疎開していたのですか。

分教場にいたのは数カ月くらいでしたか。昭和20(1945)年5月25日の空襲で家が焼け落ちるのを見ましたから。その後、栃木県小山市に家族で疎開して、その小学校に通いました。住んだのは、親が懇意にしていた人の持ち物で納屋みたいなところでした。空襲のない田舎だから、学校も普通に授業していたんです。でも、都会から来た子って偉そうに見えるちゃやうんでしょか、そんな気はないんですが、なにかにつけてもはじかれるんですよ。

—都会の子はいじめられるんですか。

例えば家から学校までの間、30分か40分くら



千鳥ヶ淵戦没者墓苑。第二次世界大戦の戦没者の遺骨のうち、遺族の手に渡せなかった遺骨を埋葬している

い森の中を通るんです。今思えば、森というより林くらいだったかもしれませんが。それが、都会から来たまだ小さな子にはすごく怖い。通学を心配した親が、連れて行ってくれる近所の上級生に10円あげるんですね。するとしばらくは一緒に歩いてくれるけれど、1カ月くらいで効力が切れ、森に置き去りにされて泣きながら家に帰る。それでまた親がおっと10円を渡す。そういうことの繰り返しでした。

——そこは食べ物豊富だったのでしょうか。

いいえ。何もないから畑のキュウリをもぎったりしました。昨日播いた人糞が乾ききつていないところに入って、バリバリ食べたりにましたね。けれど東京よりはあります。九段に戻ってからも、ここにお米などもらいに行きました。私も行きましたよ。上野だか市ヶ谷だかにお巡りさんが立って検問していて、大人は見つかると没収されるんですが、子供なら小さいから目が届かないでしょう。それで背中に背負ったまま、靖国神社に向かって一目散に逃げる、逃げる。けっこう重かったんですよ。でも当時は必死でしたね。

大空襲を逃れた人々への「おにぎり」

——大空襲の時は東京にいましたか。

3月10日、5月25日とも、学童疎開先から九段の家に帰宅していました。空襲が多くなった頃、男は出征していて、消防団には女子供しか

いなくなっていました。うちの父はたまたま召集されず、もう1人若い男の人もいて、このあたりが空襲されると2人で火を消していたのは鮮明に覚えています。

3月10日は下町が焼け野原になりました。皆、下町の方から山の手へ逃げて来ました。靖国通りも通ります。空襲の翌日でしょうか、焼け出されて着の身着のまま、子供連れで歩いていくんです。その時はうちの写真館は大丈夫でした。それで祖母はおにぎりを作り、写真館の前に行く人に配ったんです。

——それはどうしてなんですか。

どうしてだと思いませんか。

——そういう係だったんでしょうか。

係ではないの。うちの祖母は気前のいい人でね。「家の人の口をつねつても人にあげてしまおう」と言われていました。小豆が手に入れば、お汁粉を作って近所の子を集め、お汁粉パーティをするような家でした。だからその時も、家の防空壕にお米があつたんですよ。おにぎりを作って、皆にあげようと考えたんですよ。

——続く5月の空襲では、家も焼けたんですね。

あの日、弟と私は祖母に手を引かれ、焼夷弾がわーっと降ってくるのを避けながら逃げました。でも逃げると言ってもどこへというものもありません。防空頭巾に水をかけても、炎の熱気ですぐに乾いてしまいます。それでまた水をかけようと、持ったバケツを見ると、取っ手だけになっていて本体が残っていない。それ



5月25日の空襲で逃げた社務所のある靖国神社

に気づかないくらい夢中で逃げていたんです。焼夷弾というものはもう、太い棒のような形でバンバンと落ちてきます。そんな中を逃げて、よくもまあ体に当たらなかったものです。

逃げた先は靖国神社でした。大きな木があったから直撃を受けなかったんですね。そこから、燃える写真館を見ました。なんというのでしょうか、嫌だとか悲しいとかでもなく、ただ茫然と。今も、家が燃えていくその光景を思い出します。

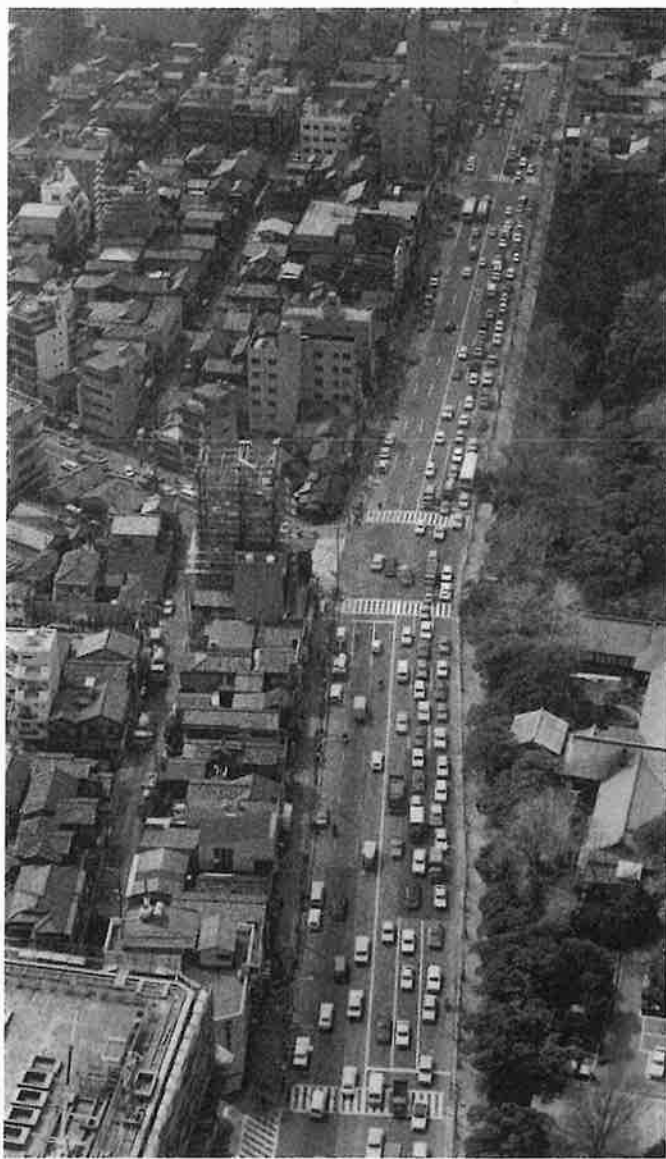
——周辺は全部焼けてしまったんでしょうか。

ほとんど焼けました。残ったのは1軒と半分でした。靖国通りの角に大きな料理屋さんとお菓子屋さんがあつて、料理屋さんはそっくり残り、お菓子屋さんは父たち消防団が2階に上がった、途中で消し止めたそうです。消し止めると言っても命がけですよ。何枚もの布団を濡らして掛け、それで火を止めるんです。そのお菓子屋さんは「宝来屋本店」といって、今も残っています。

焼け跡で焦げた砂糖のおいしさ

——当時は、まわりの人たちはどういう様子だったのでしょうか。

人がどうだったか、皆自分のことで手一杯で分からなかったのではないのでしょうか。家が焼けた後は、靖国神社の社務所が残っていて、大きな台所もあったので、落ち着くまで近所の人



昭和30年代の九段南付近

たちと泊めてもらいました。そしてある日、ほんわかといい匂いがしているなあと、匂いをたどって行くと、うちのそばの商店が並んでいたあたり、乾物屋さんで焼け落ちたところに、ぽっかりと地下に行く階段があったんです。それで皆で降りてみますと、お砂糖が麻袋に入ったまま、真っ黒に焼けていました。

戦時中はお砂糖もお米も配給ですから、そんなものが地下にあるとは誰も思いません。その家は疎開していて、いないからもう天下御免です。しばらくはそれをもたらせてきてお三時にしていました。そのうち、配給の砂糖があんなに残っているのはおかしいと大人たちも言い出しました。後から想像すると分かりますが、当時の子供たちにとっては「お砂糖が食べられるー」って、すごくうれしかったですね。

——その頃は食事も苦労されたんですね。

お米は配給だから、親たちは苦労して調達していました。なくなればお芋や芋といん。その方が多かったですね。白米のご飯はほとんど食べられませんでした。もちろんおかずもない。だから皆、栄養失調になるんです。するとオデキが出来ます。足の甲に出来て、どんどん深くなるの。膿も溜まっていくけれど、つける薬もありません。私、今も跡がありますよ。

また、薬と言えば、シラミを取る殺虫剤のDDT。大きな噴霧器で、白い粉を頭に撒くんです。頭の毛ジラミって、手では取れないんですよ。上野の地下道で生活している浮浪児がよくかけ

られていたけれど、学校でもやるの。何年前か、DDTはとても毒性が強いと分かったらしいですが、よく皆、どうもならなかったと思います。

「おにぎりをもらった人」との出会い

——戦中戦後の学校教育はどんなものでしたか。

私はまだ小さかったからそんなに分かりませんでした。現実には起きていた戦争が反映されていたのを感じました。朝は皇居に向かって最敬礼しましたね。それはどこの学校でもやっています。

校舎が焼けてしまった後は教室もありません。鶏小屋の鶏は食べちゃってますから、戦後すぐは鶏の糞の溜まった小屋を掃除して授業をしていました。私立で遠くから来ている子が多かった。戦後に再開してもそんなに人数もいませんでしたし、ある程度は広がったのですが、夏はすっごく臭かったですね。その後は校庭にカマボコ兵舎のようなものを建てて使っていました。これは風の通り道がないから夏はすごく暑いし冬は寒い。マスール（先生）もしもやけになり、手が風船みたいになって、ちよつと触るだけで痛いつて。栄養が足りないから、血液の循環も悪いです。かわいそうでした。

——焼けてしまった家はどうしたのですか。

疎開先から戻ってすぐ、両親がトタンとか木を集めて家を作りました。元の家は、建物ほう



皇居坂下門。当時は日常生活の中でも節目節目に皇居に向かって最敬礼していた

ちのものでしたが、土地は借りていたんです。少しでも早く家を建てれば、借りていた土地の権利が保持できると聞いて、バラックを建てて家族5人で住み始めました。

——戦争がなかったら、ご自身の人生は違っていたと思われませんか。

叔父のように自分の命を取られた人は、その時点で人生を閉ざされてしまいます。自分の子孫も残せませんでした。小学生だった私は、戦争で人生が変わったということはないでしょうけれど、6年生の時に受洗（カトリック）に入信して洗礼を受けること（したのは、やはり地獄に落ちたくなかったからです。その頃のカトリックって、悪いことをしたら地獄に落ちると教えられていました。それ以来、権力とか体制の不合理とかに、自分なりのアンテナで抵抗し続ける人生になりました。やはりそれは、戦時下の経験や、叔父の死があったからだと思うんです。

——今、竹田さんの人生で大切にしていることを教えてください。

とにかく平和でなければいけません。私だってケンカはしますよ。きょうだいでも周りでも。でも殺し合いになるようなことをしてはいけません。その信念を持って、体力が許す限り抵抗していききたいです。それが叔父や、あの戦争で亡くなった人たちへの償いだと思うんです。戦争は、いったん始めたらノンストップ。始まってしまいう前には、自分の国に都合のいい理屈を

いろいろ付けるものです。話し合い、理解し合うことが大切ではないでしょうか。

今から20年ほど前ですが、私が区役所に関係するようになって、ある人から「親や祖母が空襲から逃げた時、九段の写真屋さんにおにぎりをもらってとてもありがたかったと言っていたけれど、そういう話を聞いたことありますか」と尋ねられました。ああ、うちの祖母のことだと。あんなにうれしかったことはありませんでした。

戦争体験は一人ひとり違うでしょう。それを次の世代にバトンタッチしていかなければと思います。一つひとつの体験に耳を傾け、聞いたことを思い出してほしい。そして歴史を検証しつつ、自分に問いかけることを忘れないでほしいと思います。



写真左から、西山さん、大須賀さん、竹田さん、谷垣さん

未来へつなぐバトン

千代田区戦争体験記録集



区内の空襲被害記録

● 昭和19年・20年 区内の空襲被害記録

日・日	空襲地域	被害者		被害家数		被害家数		被災人員	備考	
		死亡	負傷	全壊	半壊	全壊	半壊			
11月29日 ～30日	小川町3丁目、鎌倉町、 錦町2・3丁目、多町、 美土代町、旭町、司町	17	4	20	1,310	3	2	4,500	爆弾・ 焼夷弾	
12月10日	有楽町1-14		1						焼夷弾	
12月27日	麹町区内日比谷交差点 付近		1	1						
12月31日	同朋町、宮本町、田代町、 米町、龜住町、末広町、 元佐久間町、五軒町		1	4	141	5		626	焼夷弾	
1月9日	大手町2-4		1	2	3				爆弾	
1月27日	麹町	142	65	48	3	6	4	315	爆弾	
2月24日	神田	8	7	12			2	2	爆弾	
2月25日	麹町						全半焼 223	1,450	爆弾・ 焼夷弾	
	神田						全半焼 12,700			
3月9日 ～10日	富士見町、露ヶ岡、 丸の内、大手町	8		負傷 32				8,000	焼夷弾	
4月13日 ～14日	和泉町、佐久間町 1・4丁目ほか二十三町	19		負傷 164			被害家屋 4,350	14,696	爆弾・ 焼夷弾	
5月24日	麹町	2	2				306	2	爆弾・ 焼夷弾	
5月24日	神田	9	12	72			3,317	8,997	爆弾・ 焼夷弾	
5月24日	麹町		1	6			79	314	爆弾・ 焼夷弾	
5月25日	麹町	105		負傷 68			5,934	20,585	爆弾・ 焼夷弾	
7月20日	神田	3		負傷 159			505	3	2,551	爆弾・ 銃撃
	呉服橋と八重洲橋中間 の堀内	3	2	1						

(警防庁、消防庁、帝都防空本部の資料を参照して作成)

● 区別被害面積

区	区域面積 (km ²)	空襲面積 (km ²)	比率 (%)
麹町区	8.28	4.37	52.75
神田区	3.1	2.24	72.14
区部全域	570.75	25.2	25.2

(昭和20年6月21日東京府建設局高路調査課調べ)



「戦災被災区域表示 帝都近傍図」(昭和21年)より、千代田区部分を拡大(千代田区教育委員会所蔵)

● 住宅被害戸数

区	罹災住宅戸数 (単位：戸)
麹町区	10,431
神田区	15,259
都合計	635,317

(昭和20年6月21日現在の東京府建設局
道路調査課調べをもとに、その後の被害を加えた)

● 人的被害

区	死亡	重傷	軽傷	合計
麹町区	411	530	1,341	2,282
神田区	383	410	2,636	3,429
都合計	94,225	33,974	95,366	223,565

(東京都民生局調査課調べ)